

住吉中ブロック小中連携校開校準備委員会
施設部会報告資料（第 1 回～第 5 回 会議概要書）

H23.11.28 福岡市教育委員会

【第1回施設部会】

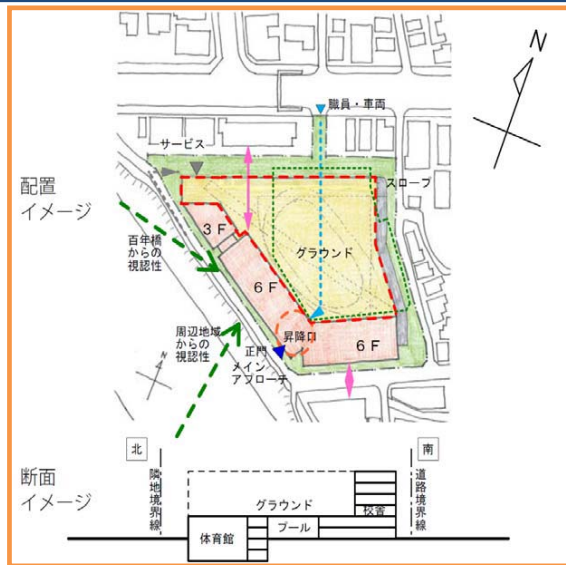
「敷地利用計画、施設配置計画及び建物形状について」検討した。
*前回（第3回報告済み）

●まとめ

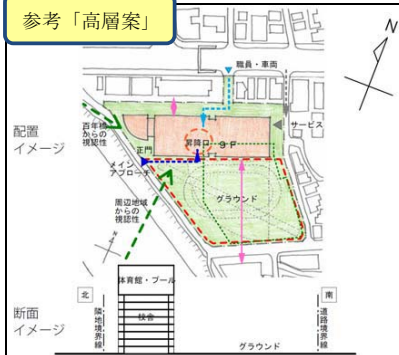
- 施設配置については、①周辺環境への配慮、②児童生徒の移動負担への配慮、③学習環境への配慮から、「南西側中層棟・人工地盤グラウンド案」を採択し、今後の施設計画を進めていくこととした。

■第1回資料抜粋

●採択案「南西側中層棟・人工地盤グラウンド案」イメージ図



参考「高層案」



参考「屋上グラウンド案」



【第2回施設部会】

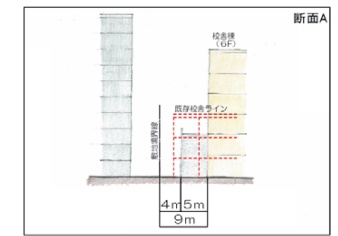
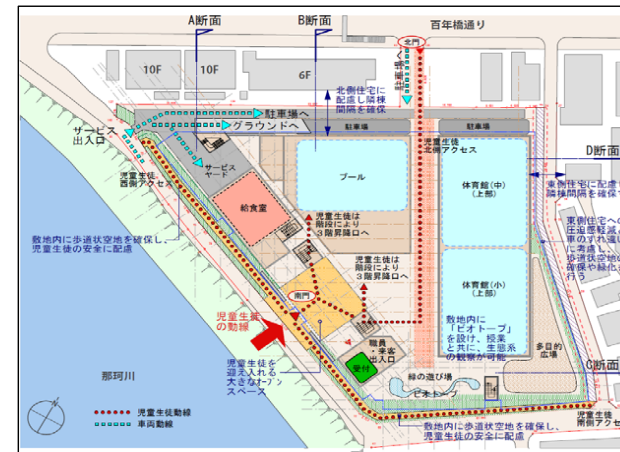
「施設配置の平面計画と断面計画」を協議し、具体的な施設計画の配慮事項について協議、確認をおこなった。

●まとめ（施設計画に際しての配慮事項について）

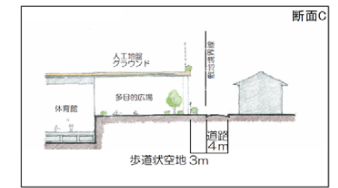
- 北側マンションや東側低層住宅など、周辺環境に配慮した計画とする。なお、特に東側については、低層住宅が多いことから、一定幅の空地や多目的広場などを配置することで、計画建物からの圧迫感を軽減する。
- 児童生徒の集中昇降口を3階の人工グラウンドレベルとし、4～6階を普通教室とすることで、学校生活における移動の負担を軽減する。
- 特別教室は、普通教室からの移動距離や、音楽室や技術科室など、音の出る教室の配置について配慮すると共に、将来のクラス数増加に対応できる施設計画とする。

■第2回資料抜粋

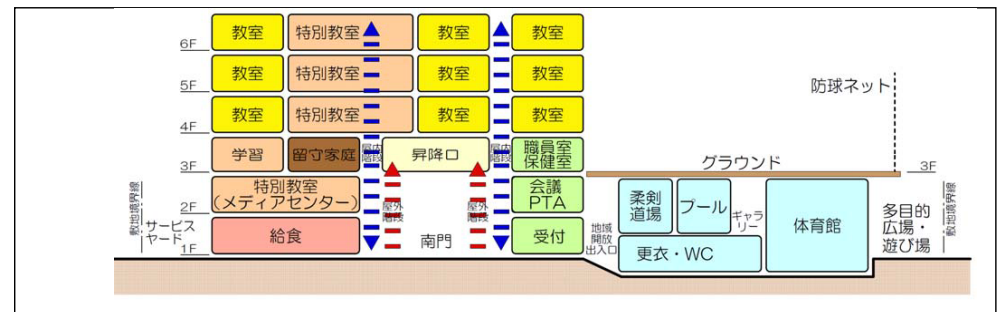
●施設配置平面計画及び断面計画イメージ図



北側住宅との断面イメージ



東側住宅との断面イメージ



【第3回施設部会】

・前回までの意見を反映した計画プランが示され、細部の課題を検討した。

●まとめ

<建物中央2階部分の吹き抜け空間の確保>

- ・将来のクラス数増加に伴う対応として、吹き抜け部を活用との意見があったが、児童生徒数の推計によれば、現計画クラス数（小学校20CR、中学校10CR）で満足すること、一時的な増加や、学年ごとのクラス数の変化には、多目的室転用で可能であることを確認した。
- ・人工地盤下の中央部分へ通風や採光を取り入れるため、建物中央2階部分を吹き抜け空間とすることとした。

<小中普通教室の配置形態は、「縦ゾーン型」とする。>

- ・小学校と中学校とを別々の階とする「フロア型」と、小学校と中学校との校種を縦に分ける「縦ゾーン型」とについて議論した結果、小中の横のつながりによる連携教育のプラス効果が期待できる「縦ゾーン型」に決定した。

<プールは、人工地盤下（1階）に配置し、温水化を図る。>

- ・限られた敷地内での計画のため、プールは人工地盤下（1階）に配置し、小中共用（1槽）とする。
- ・人工地盤下（1階）では、直射日光による水温上昇が見込めないため、温水化（加温設備の設置）とする。
- ・小中共用に対応するため、可動床による水深調整が可能な計画とする。

<グラウンド・体育館・柔剣道場を地域開放施設の対象とする。>

- ・施設利用者の利用については、1階受付にて管理を一本化する。
- ・その他一部の特別教室等の施設開放については、ソフト面で対応するなど運用面で配慮する。

●結論に至らなかった項目（次回持越し検討項目）

<グラウンドを補完する機能として間仕切り壁のない合同体育館の計画>

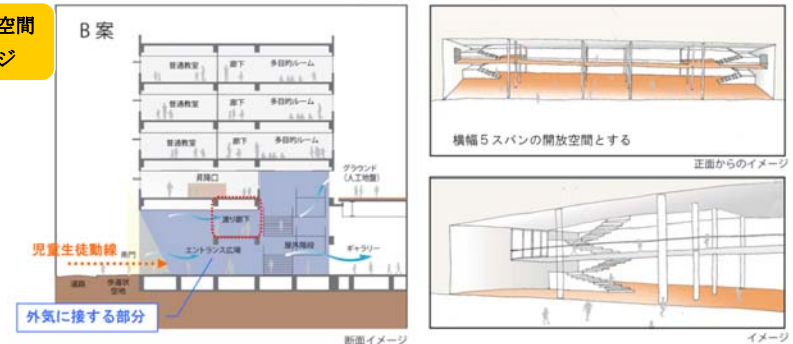
- ・合同型について、一体で広い空間を確保出来ることから発展的な利用形態が期待できる一方、小中の体育授業の重なりや、各種発表会の練習場所など、運用面での難しさについての意見が出された。

■第3回資料抜粋

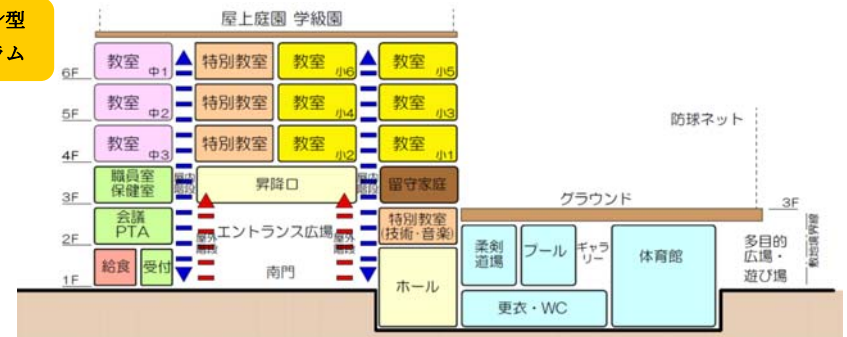
●配置図兼 1階平面図



●吹き抜け空間 のイメージ



●縦ゾーン型 ダイアグラム



【第4回施設部会】

・前回までの課題を整理した比較資料により、検討した。

●まとめ

<講堂兼体育館について、「小中一体型」か「小中独立型」かについて>

*前回からの持越し議題で、時間をかけて議論したが、今回は結論に至らず、学校と教育員委員会とで再協議することとなった。

<屋上の活用として、体育の軽運動などに利用できる広場や学級園などを計画する>

- ・限られた広さのグラウンドを補完する場所として、屋上広場を設置し、周囲をフェンスで囲うなどの安全対策を講じる。
- ・小中全学年用の学級園を設置。
- ・その他、屋上には、太陽光発電パネル（20KW）や空調室外機を設置。

<人工地盤グラウンド面の表層仕上げとして「クレイ舗装」とする>

- ・その他の比較対象として、「人工芝」「天然芝」「ウレタン舗装（ゴムチップ）」をあげ、多様な利用に堪える「クレイ舗装」に決定された。なお、土の飛散対策については、今後の検討課題とした。

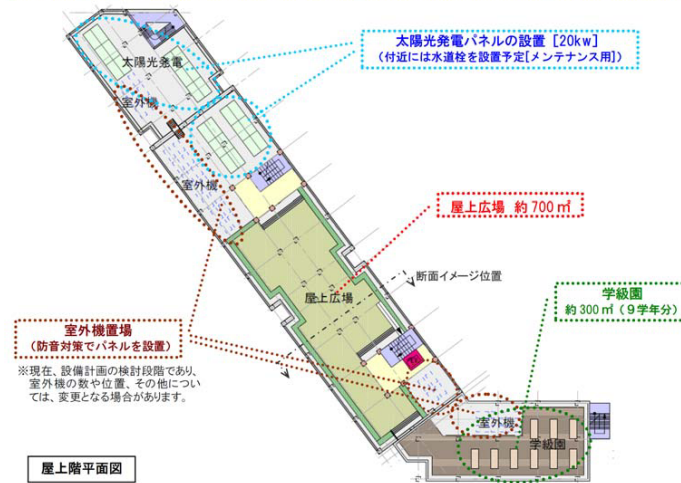
■第4回資料抜粋

●講堂兼体育館の形状について

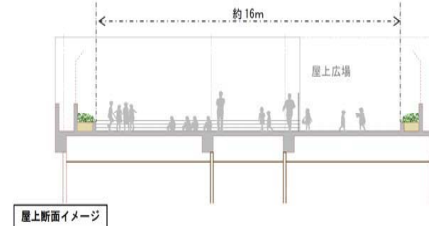
| | 小中学校別々に設置 | 合同体育館（間仕切り壁なし） 【ステージ数：1】 |
|--------|-----------------|--|
| 計画概要 | ・小中学校各々の施設として計画 | ・グラウンドを補完する多目的利用が可能な施設として計画 ・アリーナを一体的に利用することも可 |
| 計画上の特徴 | 学校運営 | ・小中学校で独立した運営を行う ・全体式典などを小・中一体的に実施（始業式・終業式など） ・運動会等の練習にも使用可 |
| | 体育授業 | ・集中した環境で行うことができる ・小学生と中学生が同じ場所で授業を行うことで学びの連続性が生じ、効果的な連携教育ができる |
| | 施設整備 | ・標準的な規模・仕様で計画 ・アリーナ面積は小中各標準面積を確保 ・ステージを統一することで、舞台設備等に係る費用を軽減 |
| | 地域利用 その他 | ・個別での利用 ・地域行事などにおいて一体利用も可 ・倉庫を別途確保（ステージ下収納の代替） |
| イメージ図 | | |
| 参考事例 | | 日野学園、荏原平塚学園 [東京都品川区] 笹島小中学校 [愛知県名古屋市] |

●屋上利用について

- 主に低学年児童が体育授業や休み時間に利用する広場を屋上に計画。（ただし、球技利用は不可）
- 学級園を計画。
- 太陽光パネルの設置（付近には水道栓を設置予定）
- 室外機置場周辺の防音対策



屋上階平面図



屋上断面イメージ

●グラウンド仕上げについて

| | | クレイ舗装（浸透性保水型舗装） |
|------|------------|---|
| 特徴 | | <ul style="list-style-type: none"> ・排水性が良い ・保水状態の持続が可能のため、防塵効果が期待できる ・浸透した水は濁水化しないため、排水管等の目詰りはしない。 |
| 機能性 | 授業一般 | 各種競技やイベントに利用しやすい |
| | 野球・サッカー | スパイクの利用可能 |
| | 陸上 | スパイクの利用可能 |
| 維持管理 | | 除草・散水等が必要 |
| コスト | 建設費（直接工事費） | 3,500 円/㎡ |
| | 維持管理費 | 500 円/年・㎡ |
| 写真 | | |

笹島小中学校（人工地盤）

【第5回施設部会】

・講堂兼体育館について、「小中一体型」か「小中独立型」かについて、3校長及び教育委員会での検討・協議した内容について説明がなされ、安定した小中の教育活動を考えた時に「小中独立型」の方に優位性があるという報告があり、その後、「小中独立型」の変更案1と変更案2について比較検討図面の説明があった。

●まとめ

＜講堂兼体育館については「小中独立型」とし、それに伴う変更案1を基本計画の最終案とすることに決定しました。＞

- ・「小中一体型」と「小中独立型」とどちらが良いかについては、安定した小中の教育活動を保障することに重点を置き、
 - ①学習内容による小中の体育科授業の利用調整の難しさ
 - ②儀式練習、表現の活動の重点化等による「場（ステージ）」の不足
 などの観点から、「小中独立型」を承認し、
- ・変更案については、児童生徒の登下校用昇降階段の配置の違いなど、総合的に判断して変更案1を採択した。

■第5回資料抜粋

決定案

